2024_0718「騒々しいホトトギス（動画)」日々の理科 3633 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

日本にはホトトギス科の野鳥が４種類生息しています。「カッコウ（郭公)」「ジュウイチ（十一)」「ツツドリ（筒鳥)」それに「ホトトギス」です。いずれも、他の鳥類の巣に卵を産み付け、その巣の持ち主（親鳥）に世話をさせる、いわゆる「托卵（たくらん)」という習性を持っています。

北軽井沢にはこの４種類とも生息しています。姿はあまり見かけないし、もし見たとしても似たような姿なので、見分けは難しいと思います。ところが鳴き声は全く個性的で、それぞれ「カッコー、カッコー」「ジューウイチー」「ホーホー、ホーホー」「特許許可局」と鳴き、聞き間違えることはありません。

漢字では「杜鵑」「不如帰」「時鳥」などいろいろなあて字があります。古来から和歌などにもよく詠まれています。「ほととぎす鳴きつる方を眺むればただ有明の月ぞ残れる」「目には青葉山ほととぎす初鰹」は有名です。実は、そのけたたましい鳴き声に少々困っています。山荘の裏庭のカラマツの林で、だしぬけに鳴きだします。「時鳥」とは言っても、時に関係なく鳴きます、昼間ならまだ良いのですが、早朝、未明、時には真夜中でも鳴いているのです。コイツに何度安眠妨害されたか知れません。一度捕獲して「静かにしてくれたまえじゃないか！」とスノークのように説教したいところですが、難しそうです。まあ、秋になって南に去るまで我慢するしかなさそうです。

（2024 年 7 月上旬／北軽井沢）